

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103902		
法人名	株式会社河北食品		
事業所名(ユニット名)	千代の里グループホーム(1F)		
所在地	和歌山県和歌山市延時84-1		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103902&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「スタッフ自らが過ごしたいと思える様なホームを目指しています」という理念を掲げ、その理念に基づいた実践を行う為に、スタッフは利用者寄り添うことを主とし、常に利用者の立場に立って支援を考え、「利用者本位のケア」を実践できるよう努めています。また、母体が給食会社ということもあり、普段の食事のみならず、誕生会では一人一人に会費弁当を提供する等、食事の面に関して力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の挙げた理念を管理者及び職員間で共有する事に止まらず、職員自身の思いが利用者の思いに繋がっているのかを常に自問し、かつ職員間で密に話し合いながらのケア実践である。事業所のアピールしたい点にもある通り母体が給食会社であるという利を活かし、食生活への厚い配慮がなされている。また、本人の希望に応じての入浴や、おむつへの移行の阻止はもとより、きめ細かい対応での段階的なおむつ外しへの取り組み、機を見ての墓参り、季節毎の行事を通しての外出支援等“利用者本意のケア”を目指し事業所一丸となつての努力が続けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングで全職員が理念を唱和する等で、理念の共有に努めている。	事業所の理念は地域密着型サービスとしてだけでなく、福祉全般に通じる内容となっている。ミーティングでの唱和に加え、具体的なケアの事例の検討を通して理念の確認及び共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣にある畑で作業している人が花の手入れに来てくれたり、利用者を連れて近所のスーパーに買い物に行ったりと、地域とつながりのある生活を利用者が送れる様支援している。	近隣の方々の訪問があった場合や近所のスーパー等に出掛けた時は、必ず挨拶を交わすようにしている。また夏祭りの案内状等を配布して地域の方々の参加を呼びかけ、行事を通しての地域交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、参加してくれている民生委員さんに認知症の理解を深めてもらえるよう工夫している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては、事故報告等を行い、また利用者の日常を紹介することで、地域・家族の方々の認知症の理解を深めてもらえるよう努めている。	本年度は9月に開催し、市職員・民生委員・薬剤師・家族・利用者の参加がありホームの成り立ちやグループホーム・認知症についての説明、活動状況の報告等を行った。会議を通して得られた意見をサービス向上に活かそうと取り組んでいる。	運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な課題を話し合い、地域の理解と支援を得る為の貴重な機会である事を踏まえ、更なるサービスの向上を目指し、回数を重ねる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事等がある時は、まず市役所担当者のもとに赴くことで、協力関係を築くようにしている。	相談事案や問合せ等については出来るだけ電話利用を避け、直接市役所担当者のもとに、赴くようにしている。月1回程度は出掛け、併せて事業所の実情やケアサービスの取り組み等を伝えながら協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロアに「身体拘束廃止推進員」研修の修了者を配置し、玄関及び居室等には施錠することをせず、拘束の無い施設にしている。	積極的に外部研修に参加、修了者による内部研修で身体拘束となる具体的な行為の理解の徹底化を図っている。原則的に玄関や居室等の施錠はせず、玄関には赤外線感知装置を備えている。防犯の為19時～6時30分の間は玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県が主催する高齢者虐待防止に関する研修にスタッフを参加させ、虐待が一切行われない施設作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から相談があった時は、成年後見制度があることの説明をし、それを受けて、実際に活用している利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、家族と十分な話し合いを持つ時間を確保し、相互の理解に努めている。また、改定等があった場合は、個別で電話連絡を行うことで、不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付担当者を契約書に明記し、また施設内に掲示している運営規定に外部の相談窓口の連絡先を明記している。	契約時には意見、要望の受付窓口(施設内及び外部)の案内をしているが、窓口にこだわる事なく、メールや直接職員による受付を行い運営に反映させている。何よりも利用者、家族等との信頼関係を築く事に努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは、利用者のケアのみならず、業務体制等についてスタッフの提案を聴くようにし、提案があった時は管理者間で話し合いを行い、改善策を講じている。	毎月の定例ミーティングでは課題を設定し各職員の意見を聴き取り、管理者間の話し合いで可否を判断の上、出来るだけの改善策を講じている。またボーナス支給時には各職員への聴き取りを行う他、定期ではないがアンケートも実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を観察し、能力に応じた昇給等を行い、シフトも変則的に組むことなく、無理なく働ける労働環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者→管理者、管理者→職員にOJTを心掛け、また、外部研修を受ける際には出勤時間内に受けさせることで、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	“地域密着型サービスケアネット和歌山”という同業者団体に加盟し、ネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には個別で関わりを持ち、利用者の要望を聞くよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から面談の時間を多く持ち、家族の不安の軽減を図り、要望に沿ったサービスを行うことの説明を十分に行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者(管理者)と職員が本人・家族が必要としている支援について検討し、支援の方針を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「スタッフ自らが過ごしたいと思える様なホームを目指す」という理念のもとに、利用者を家族同様にみなし利用者の人権を尊重し、互いの信頼関係を築くよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも密に連絡を取り、利用者の状況報告等を行うことで利用者の情報共有をし、共に利用者への関わりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人等の面会は積極的に受け入れ、また馴染みの場所への外出支援を行う等の支援に努めている。	近くであれば職員が同伴して墓参り等を実施している。職員の直接の対応には限度があるので家族に依頼して帰宅等への支援を行っている。また友人等の来訪があった場合は職員一同歓迎し、輪の中に入り談笑するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホーム＝集団生活の場なので、スタッフが介添えに入ることで、周囲との協調関係を築くよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況・状態を家族に聞いたり、あるいは家族が報告に来てくれるといった関係を築き、必要に応じて情報提供等を行ってフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさをモットーに支援内容を考え、職員は日頃から利用者の声を傾聴するよう指導している。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握の為、職員は表情からの読み取りや傾聴に徹しており、加えて利用に至るまでの状況を家族から聴き取り、利用者本位のケア実践に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具等(机やタンス等)を自由に持ち込んでもらい、居室内を住み慣れた環境に近いものにするよう心掛けている。また、家族に聞き取りを行い、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のサイクルは大まかには決まっているものの、それぞれの利用者の希望にそった(食事時間等)柔軟な対応をとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望を中心として、家族の要望や残存機能を損なわない様なケアプランの作成に努めている。	本人の要望や出来る事に力点を置き、家族や主治医の意見・要望を取り入れた介護計画を作成している。6ヶ月毎の見直しを原則としているが、モニタリングを通して、状況の変化等により新たな課題の発生が認められた場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケース記録」という個別記録を記入し、利用者の日常サイクルの把握に努めている。また、状態変化のあった利用者については、都度記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療職や福祉用具販売等の他業種と連携し、ニーズに合った対応が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	所轄の消防署と日頃から交流を持ち、利用者の安全な暮らし作りを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定は、本人・家族の希望を尊重している。また、かかりつけ医には状況報告を行い、関係を築くよう努めている。	かかりつけ医の選定は本人や家族等の希望を優先して行っている。現在、多数は当該ホームの紹介による医師への受診となっている。かかりつけ医には受診時状況報告を必ず行い、得られた指示や意見をケアの実践に反映させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に状態の報告を行うと共に、施設・看護・医療の連携を築くよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを送り、また退院時には看護サマリーを送ってもらうことで情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、終末期のあり方について家族と話し合いを持っている。また、家族には利用者に変化があれば報告を行い、その後の方針等の話し合いを行っている。	入所時に終末期の看取りのできる場合とできない場合を説明している。状況の変化に応じて、本人・家族・かかりつけ医等との話し合いを行ない、方針を共有しながら連携して支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所轄の消防が主催する救命講習に職員を参加させ、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄の消防と連携をとり、定期的に(年2回)の事業所防火訓練を行っている。	年2回の防火・避難訓練を実施している。内1回は消防署員の立会いを受けており、全職員の参加を原則としている。防火管理者を中心に災害時の体制を整えると共に、各職員は災害発生時の対応策を常に念頭に置いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等で利用者の尊厳等について話す機会を設け、職員は利用者を「人生の先輩」として敬い、敬意をもって接するよう指導している。	外部研修である高齢者権利擁護推進員研修に各フロア毎に参加し、OJTを通して全職員に対する内部研修を実施している。また個人情報に関しては各フロアでの管理を徹底し、利用目的に掲げた事項以外は開示せず保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で「何か食べたい物がありますか？・どこか行きたい所はありますか？」等の声掛けを行い、利用者の希望を聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員には「業務を後回しにしてでも利用者本位の支援を行う」よう指導している。また利用者によって食事を提供する時間を変えたりと、ペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人には衣類の選択は自身で行ってもらい、出来ない人にも服を見せて選んでもらったりと身だしなみにも利用者の意思が反映するように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に、利用者の好みを聞いて取り入れるよう工夫している。また利用者に野菜の皮むき等の下ごしらえを手伝ってもらったり、食後のテーブル拭きを手伝ってもらっている。	利用者や家族に好みを聞いて取り入れるだけでなく好みの味や調理法についても各人に合わせて工夫している。利用者の能力を活かして、野菜の皮むき等の下ごしらえ、調理や食後のテーブル拭き等を手伝ってもらっている。職員と一緒に食事をし、介助を必要とする利用者についても最小の介助を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた上で、献立を作成している。また、咀嚼や義歯の状態を考慮し、食事の形状も利用者に応じたものにし、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、出来る人には自分で歯磨きをしてもらい、出来ない人には食後洗面所まで誘導し、うがいをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の薄れてきている利用者に対してはトイレ誘導を行う等、利用者がトイレでの排泄を出来るよう支援している。	利用者毎の排泄についてのチェック表に基づき尿意便意の正確でない利用者に対してはトイレ誘導を行っている。おむつを使用している利用者についてもトイレでの排泄が日常生活の基本となる事を職員自身が常に念頭に置き、段階的におむつ外しに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者には日中ももとより、夜間のトイレ時にも水分を摂取してもらい、接種水分量の確保に努めている。また必要な人には、医療面での支援を行い、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は無理強いすることなく、その日の利用者の気分・体調に合わせて支援している。	利用者一人ひとりの時間や温度の希望に合わせてると共に、その日の利用者の気分・体調を考慮しての入浴実施である。一部の方は隔日の利用であるが、他の利用者は、ほぼ毎日ゆったりとした気分で入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況を観察し、疲れたり眠そうな時は声掛けで居室で仮眠をとってもらようよう支援している。また、その際には夜間の睡眠に影響の無いよう、頃合いを見計らって覚醒を促すよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作り、利用者の服用している薬についての情報を共有している。また、薬剤師と日頃から交流をもつことで、薬の効能や副作用の説明を聞くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が作業を行う時は、出来ることであれば利用者を交えて一緒に作業するようにしている。また編み物や庭の草むしり等、利用者のしたいことを自由にしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスでお茶を飲んだり、戸外へ出ることなどで気分転換を行っている。また、遠方であっても、利用者の希望に沿えるよう、家族と日程を調整し、外出支援を行っている。	テラスでのお茶会、近くの公園への散歩等利用者の希望に沿って実施している。初詣・遠足等屋外へ出向く行事は月1回程度設定している。普段行けないような場所への外出希望には家族等に協力を依頼し実現に向け支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る人には自己にてお金の管理をしてもらっている。また、買い物に行った際は、支払は出来るだけ利用者にしてもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を職員がとりついでかけたり、葉書を投函する等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけに季節感を取り入れて工夫している。室温も空調を使用して、快適に保つよう心掛けている。	玄関・フロア等に季節の花の飾付けを欠かさず、利用者の作品(絵・短歌等)も掲げている。またカーテンの工夫や音量・室温の調整等で快適な空間造りに努めている。フロアには椅子を多く配置すると共に、ソファの配置変えを適宜行い、くつろいだ雰囲気でも談笑できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを何個かずつバラいて置いたり、テーブル席で利用者同士が話の出来るような環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具等の持ち込みを、施設側から推奨している。また、居室が寒々しいものにならないよう、利用者に応じてじゅうたんを敷く等の工夫をしている。	本人の使い慣れた家具や寝具等の持込みが家族の協力を得て実現している。利用者は思い思いに家族の写真や自身の作品等を飾っている。また各室にはソファが備えられ、訪れた方とゆっくりと過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の各所に手すりを設置し、段差も解消して安全な環境作りをしている。また張り紙でトイレの場所をわかりやすくする工夫もしている。		